

## 「ごめんなさい」でぽっかぽか

道徳 第1学年

能美市立和気小学校・教諭

### 1 事例の概要

本校では、研究主題を「豊かな心を育む学校づくり～認め合う子、共感し合う子の育成～」としている。温かい人間関係づくりを通して人権感覚を養い、互いのよさを認め、ともに伸びようとする児童を目指している。そのような児童の姿は、学校教育活動全体を通して育成されるものであり、中でも、道徳教育を学校教育活動と関連させて、計画的・発展的に進めることが必要であると考えた。そのために、本校では、道徳教育の柱となる重点目標を見直し、学校教育活動との関連を見通した年間指導計画を作成し、実践することにした。

#### A-1 人権教育年間計画

### 2 実践内容

#### (1) 主題設定の理由

入学して2ヶ月。教師との関わりを強く求めていた子どもたちだったが、学校生活に慣れるにしたがって行動範囲や関わる人々が広がってきた。それとともに、友達同士でのトラブルが出てくるようになった。1年生の子どもたちは活発で仲がいいのだが、度々、友達同士であいさつが交わされていなかったり、手助けしようやさしく声をかけてくれる友達に対して上手に関われなかったりする姿が見られ、トラブルの原因は、コミュニケーションの行き違いであることが多いと感じた。

今後、友達や上級生、先生などの様々な人々と人間関係を築いていく第一歩として、あいさつは欠かせない。あいさつに複数時間取り組む中で、人と関わる心地よさを感じ、進んで人と関わろうとする行動力をつけたいと考えた。

1年生は、まだまだ自己中心的な考えが強く、自分の立場を守りたいという思いから、うそやごまかしの誘惑に負けてしまうことが多い。本時では、1年生だからこそ、「ごめんなさい」というあいさつをとおして、自分に正直になる快さに気づかせ、正直・誠実に生きることの大切さを学ばせたいと考えた。

#### (2) 指導上の工夫点

##### ① 総合単元的な取り組み

人間関係作りの基盤として、「あいさつでぽっかぽか」を合い言葉に総合単元的な取り組みを行った。いろいろなことばの中から特に「ありがとう」「ごめんなさい」を選んで重点的に取り組むことにした。本校ではこれらのことばもあいさつとしてとらえている。あいさつの取り組みは、学校だけでは不十分であるので、最初の授業を授業参観で公開し、保護者にも協力をお願いした。

##### ② 展開の工夫

友達の大切なクレヨンを折ってしまったのぼるの心の葛藤を考えることによって、のぼるに共感させたいと思い、クレヨンを折って葛藤している場面とのぼるが正直にあやまった場面の2つに分けて提示した。その後、「ごめんなさい」と正直に謝り、友達に許してもらったのぼるの劇化を取り入れることによって、のぼるのほっとした快い気持ちに気づかせることができた。最後には、のぼるのような体験を学級の中で話し合ったり、教師の説話には失敗談を用いたりして、自分に正直に過ごす快さや大切さを改めて確認し合った。

